

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 6 年 6 月 24 日(2024.6.24)

【公開番号】 特開 2022-142351(P2022-142351A)
【公開日】 令和 4 年 9 月 30 日(2022.9.30)
【年通号数】 公開公報(特許)2022-180
【出願番号】 特願 2021-42499(P2021-42499)
【国際特許分類】
A 63 F 7/02(2006.01)
【FI】
A 63 F 7/02 315 A

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 6 年 6 月 14 日(2024.6.14)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

可変表示を行い、可変表示が特定表示結果で表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
演出手段を用いて演出を実行可能な演出実行手段と、
非特別状態と該非特別状態よりも有利な特別状態とに制御可能な状態制御手段と、
を備え、
前記演出手段として、発光手段と表示手段とを含み、
前記演出実行手段は、
輝度データで構成された輝度データテーブルを用いて前記発光手段を制御し、
前記有利状態に制御されるか否かを報知する報知演出を実行可能であり、
前記有利状態に制御される旨が決定されているときに実行される報知演出は、前記有利状態に制御されるか否かの可否が報知されるまでの導入パートと、前記有利状態に制御される旨が報知される第 1 エピローグパートとを含んで構成され、
前記有利状態に制御されない旨が決定されているときに実行される報知演出は、前記有利状態に制御されるか否かの可否が報知されるまでの導入パートと、前記有利状態に制御されない旨が報知される第 2 エピローグパートとを含んで構成され、
前記有利状態に制御される旨が決定されているときに実行される報知演出における導入パートと、前記有利状態に制御されない旨が決定されているときに実行される報知演出における導入パートとは共通であり、
前記演出実行手段は、
導入パートにおいて、導入パートに対応する輝度データテーブルを用いて前記発光手段を制御し、
第 2 エピローグパートにおいて、第 2 エピローグパートに対応する輝度データテーブルを用いて前記発光手段を制御し、
第 2 エピローグパートに対応する輝度データテーブルにおいて最初に用いられる輝度データは、導入パートに対応する輝度データテーブルにおいて最後に用いられる輝度データよりも輝度が低く設定され、
導入パートに対応する輝度データテーブルにおいて最後に用いられる輝度データを用いて前記発光手段が制御されることにより、該発光手段が第 1 輝度で発光し、

30

40

50

第2エピソードパートに対応する輝度データテーブルにおいて最初に用いられる輝度データを用いて前記発光手段が制御されることにより、該発光手段が前記第1輝度よりも低い輝度の第2輝度で発光し、

前記状態制御手段は、前記特別状態として、前記特定表示結果が表示されない可変表示が特定回数実行されたことにもとづく特定条件が成立したときに特定特別状態に制御可能であり、

前記演出実行手段は、

前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様を特別発光態様とすることが可能であり、

前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記表示手段の態様を特別表示態様とすることが可能であり、

前記非特別状態における前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様を特別発光態様とするための輝度データと、前記特定特別状態における前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様を特別発光態様とするための輝度データとは共通のデータを含み、

前記非特別状態における前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様が特別発光態様となる場合における前記表示手段の特別表示態様と、前記特定特別状態における前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様が特別発光態様となる場合における前記表示手段の特別表示態様とは異なる、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

従来、可変表示が開始されてから終了するまでにおける複数のパート（たとえば、導入パート、当否決定パート、エピソードパートなど）を設け、遊技者の興味を高める遊技機が知られている（特許文献1）。また、大当たり図柄のうち、非確変図柄（通常大当たり図柄）で仮停止した後に大当たり図柄が再変動し、その後に非確変図柄または確変図柄が停止するような再抽選演出を実行する遊技機が知られている（特許文献2）。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

【特許文献1】特開2019-118411号公報

【特許文献2】特開2016-179389号公報

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

上述した遊技機において、商品性を高める余地があった。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

この発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、商品性を高めた遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

(A) 可変表示を行い、可変表示が特定表示結果で表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

演出手段を用いて演出を実行可能な演出実行手段と、

非特別状態と該非特別状態よりも有利な特別状態とに制御可能な状態制御手段と、を備え、

前記演出手段として、発光手段と表示手段とを含み、

前記演出実行手段は、

輝度データで構成された輝度データテーブルを用いて前記発光手段を制御し、

前記有利状態に制御されるか否かを報知する報知演出を実行可能であり、

前記有利状態に制御される旨が決定されているときに実行される報知演出は、前記有利状態に制御されるか否かの当否が報知されるまでの導入パートと、前記有利状態に制御される旨が報知される第1エピソードパートとを含んで構成され、

前記有利状態に制御されない旨が決定されているときに実行される報知演出は、前記有利状態に制御されるか否かの当否が報知されるまでの導入パートと、前記有利状態に制御されない旨が報知される第2エピソードパートとを含んで構成され、

前記有利状態に制御される旨が決定されているときに実行される報知演出における導入パートと、前記有利状態に制御されない旨が決定されているときに実行される報知演出における導入パートとは共通であり、

前記演出実行手段は、

導入パートにおいて、導入パートに対応する輝度データテーブルを用いて前記発光手段を制御し、

第2エピソードパートにおいて、第2エピソードパートに対応する輝度データテーブルを用いて前記発光手段を制御し、

第2エピソードパートに対応する輝度データテーブルにおいて最初に用いられる輝度データは、導入パートに対応する輝度データテーブルにおいて最後に用いられる輝度データよりも輝度が低く設定され、

導入パートに対応する輝度データテーブルにおいて最後に用いられる輝度データを用いて前記発光手段が制御されることにより、該発光手段が第1輝度で発光し、

第2エピソードパートに対応する輝度データテーブルにおいて最初に用いられる輝度データを用いて前記発光手段が制御されることにより、該発光手段が前記第1輝度よりも低い輝度の第2輝度で発光し、

前記状態制御手段は、前記特別状態として、前記特定表示結果が表示されない可変表示が特定回数実行されたことにもとづく特定条件が成立したときに特定特別状態に制御可能であり、

前記演出実行手段は、

前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様を特別発光態様とすることが可能であり、

前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記表示手段の態様を特別表示態様とすることが可能であり、

前記非特別状態における前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段

10

20

30

40

50

の態様を特別発光態様とするための輝度データと、前記特定特別状態における前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様を特別発光態様とするための輝度データとは共通のデータを含み、

前記非特別状態における前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様が特別発光態様となる場合における前記表示手段の特別表示態様と、前記特定特別状態における前記特定表示結果が表示される可変表示の実行中に前記発光手段の態様が特別発光態様となる場合における前記表示手段の特別表示態様とは異なる、

ことを特徴とする。

この特徴によれば、遊技機の商品性を高めることが出来る。

(1) 始動条件が成立したことにもとづいて識別情報の可変表示を行い、可変表示が特定表示結果で表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段と、

前記決定手段の決定結果にもとづいて可変表示期間が異なる複数種類の可変表示パターンのうちから1の可変表示パターンを決定可能な可変表示パターン決定手段と、

非特別状態と該非特別状態よりも始動条件が成立しやすい特別状態とに制御可能な状態制御手段と、

を備え、

前記状態制御手段は、前記特別状態として、前記有利状態に制御されたことにもとづいて有利状態後特別状態と、可変表示が前記特定表示結果とは異なる所定表示結果で表示されたことにもとづいて所定表示結果後特別状態と、に制御可能であり、

前記所定表示結果後特別状態の方が前記有利状態後特別状態よりも前記特別状態に制御可能な回数が多く、

前記所定表示結果後特別状態に制御されている場合の方が、前記有利状態後特別状態に制御されている場合よりも、前記有利状態に制御されないときに決定可能な可変表示パターンの平均可変表示期間が短く、

前記所定表示結果後特別状態に制御されている場合の方が、前記有利状態後特別状態に制御されている場合よりも、前記有利状態に制御されないときに決定可能な可変表示パターンの種類が少ない(例えば、図284-27、図284-29に示すように、時短状態C2においては可変表示結果がはずれとなる場合はPA3-1とPA3-10の2種類の変動パターンを選択可能である一方で、時短状態A1、時短状態A2、時短状態A3において可変表示結果がはずれとなる場合はPA3-1、PA3-2、PA3-3、PA3-4、PA3-5の5種類の変動パターンを選択可能な部分)、ことを特徴とする。

この特徴によれば、特別状態に制御可能な遊技機において商品性を高めることが出来る。

10

20

30

40

50